

English Course Newsletter

Thanks to everyone, THE SHOWCASE was a great success!

平成27年8月31日、イズミティ21にて第3回英語科発表会が開催されました。その様子を演目ごとに紹介します。

Speech Contest 今年の弁論大会は、1, 2年生から7名の参加があり、上位2名は県大会への出場権を手に入れました。



ALT's Warm-Up Activity

午後の部は、ALTのDevin先生とDavid先生による言語活動から始まりました。英語圏ではおなじみの『BINGO』の歌について意味を確認し、手拍子に合わせて歌いました。



MCs 歌の後に、英語科発表会でMCを担当する4名の生徒が紹介されました。いずれも1年間の海外留学を経験してきた生徒たちで、普段の授業では聞くチャンスがなかった留学の話をネタに演目の合間を埋めてくれました。



会の後半では、ステージから降りて、会場の観客に感想を英語でたずねる場面もありました。観客の方は、突然の質問に戸惑う場面もありましたが、MCのがんばりが輝いていました。

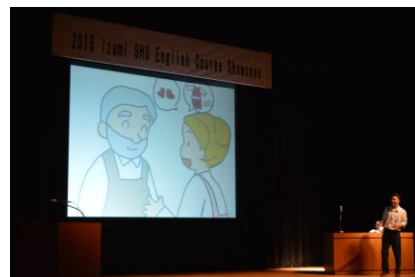
Opening Ceremony

開会式では、実行委員長の挨拶が会場を盛り上げました。自分たちの会は自分たちで盛り上げるという熱意が伝わってきました。



Recitation

英語科に入るとまず英語暗唱の課題を与えられます。感情をこめて、発音をより英語に近くなるように練習し、クラスの前で発表します。英語科発表会では、クラスの代表がスライドに合わせて、暗唱してくれました。



Show & Tell

1年生の次の演目では、自分の好きなものについて英語で説明するというものです。原稿作りから作成することになり、暗唱と同様にクラスでの発表会が行われます。



Presentation

3年生の演目のスタートはプレゼンテーションでした。「時事英語」と「英語表現」の時間で、現代の日本の抱える社会問題を取り上げ、パワーポイントを使用してプレゼンテーションをしました。それぞれ興味深いテーマを選び、出場ペアについては挑戦したいという気持ちを優先して3組選びました。3組とも入念にスライドや原稿を準備し、伝えたいメッセージを第一に本番に挑みました。

1つめのペアは、若いうちから健康的な生活を送ることの大切さを分かりやすく説明してくれました。特に過激なダイエットは将来胎児にも影響するという調査結果もデータに取り入れられていました。二人とも落ち着いて話していたのが印象的でした。

2つ目のペアは、スライドが効果的で、下調べも入念に行っていました。若者も選挙に参加すべきで、そのためにもっと興味を持ってもらうことや、選挙権の歴史にも触れてくれました。2年生のオーディエンスからも選挙に行ってみたいとの返事が戻ってきました。

最後のペアは、インターネットの増加とニートとの関連性について述べてくれました。ネットの使用は危険だから制限するのではなく、上手に使いこなすためにも使うことは有効だと若者の視点でまとめてくれました。両者ともオーディエンスに訴えるスタイルは堂々としていて、3年生としての貫録がありました。



Skit

今年のスキットはすべてオリジナルの脚本で臨みました。

3年生の劇『Something Yellow』は、将軍が大事な「黄色い皮でできたのもの」を失くしてしまい、家来たちが一緒に探すという物語でした。家来の一人が冒頭にバナナをこっそり盗み食いしたことから、自分が犯人だと思い込み、なんとか見つからないように話を逸らすのですが、結局ばれてしまいます。将軍の方も、失くしたと思っていたものは実は自分が持っていた

ことに気づき、何もなかったように振舞うのですが、うっかりそれを落してしまいます。それを見つけた家来たちは、バナナではなく黄色い巻物に書かれた恋文だと分かります。将軍の恋心に気づいた家来の1人と晴れてハッピーエンドとなり、めでたし、めでたし。



もう1つの3年生の劇『The Discovery of a New Star』は、映画のオーディション会場に集まった個性あふれる役者とそれを決める監督たちとのやりとりから始まりました。役者の中になぜかゴリラのジョージが入っていました。監督たちは疑問に感じながらも、そのジョージの魅力に引き込まれ、ジョージは主演を手に入れます。映画の製作も順調に進み、ジョージは一躍スターになりました。めでたし、めでたし。



2年生の劇『The Proposal』では、恋人にプロポーズをしたいのに、次から次へと来客があり、予定通りに進みません。最後に現れた青年が、あっという間に彼女に結婚を申し込んでしまうのでした。



次の2年生の劇『Who is the Most Popular?』では、夜の静かになった動物園の動物たちのやりとりをかわいく演じていました。話題は、誰が一番の人気者なのかです。そこへ飼育員がやってきて、自分が一番だと議論に入ってきました。



Debate

ディベートでは、賛成か反対かを定めるくじをキャプテンが引くところから、始まりました。お互いに、対戦テーマと対戦相手は事前に知らされていましたが、両面から準備をして試合に臨みました。試合の流れは頭に入っているにもかかわらず、実際に相手チームが何を主張するかは分かりません。入念な準備と合間に入る休憩時間を有効に使い、4人で協力して戦いました。

第1試合は、「高校の英語の授業は英語なされるべきである」というテーマにたいして3年生は「賛成」、2年生は「反対」をひきました。この話題では、生徒が身につけるべき英語力が論点になっていきます。大学



入試をゴールとするのかそれとも実際の社会に出た時をゴールとするのか意見の分かれるところでしょう。議論の中でも入試問題を解くための「文法」、ビジネスで役立つ「コミュニケーション力」の戦いになっていました。3年生からは入試の在り方も変わってきているので、「文法」学習ではなく、自分の意見を述べる「表現力」の必要性も出てきているとの意見も出てきました。

第2試合は、「高校ではボランティア活動を必修にすべきである」というテーマに対して2年生は「賛成」、3年生は「反対」を引きました。3年生の主張は、ボランティア活動によって従来の総合が削られ、生徒の将来について考える時間がなくなることが危惧されるというものでした。2年生は、人間関係を築くためにボランティアは必要だという意見が出てきました。この意見に対してそれぞ



れのグループにもボランティア経験者がいたらしく自分たちの意見に合うように経験談を話していました。お互いに主観的な意見を述べるだけでなく、客観的なデータを進めるとより説得力があったかもしれません。いずれにする人の感じ方は様々です。



第3試合は1年生との戦いでした。1年生はまだディベートを授業で体験していません。この発表会に向けて作戦会議を何度もしてきました。そのことを考慮して試合を振り返ってほしいと思います。「高校の制服は廃止にすべきである」というテーマで1年生は「賛成」、3年生は「反対」を引きました。3年生の主張は「制服がなくなれば気候に合わせて自由に自己調整でき、よりよい学習環境が整う。」また、「先生方も授業に専念できる」というものでした。1年生も「制服という同じ条件のもとで、自己表現をすべきである。」と生徒を公平に見るために制服は必要だと述べ、また「費用面でも制服の方が家庭の負担が少ない」と主張しました。質疑応答では、3年生に対して1年生が「論点がずれている」と指摘する場面もあり、今後の1年生の成長が楽しみです。



試合が終わると議長団が観客席に向かって、どちらが優勢であったかパンフレットを挙げてもらいました。その結果は判定には入っていませんが、選手たちにとっては、その反応が励みになります。そして、最後に各学年から2名ずつ選ばれた6人のジャッジが勝者を発表しました。

英語科発表会において、ディベートをするか否かはある意味賭けです。何故なら予測不能なことが起こりえるからです。昨年の発表会での佐藤教頭先生の講演にもあったように、我々の身の回りでなされている会話の中で「言葉は早くて即興的」なのです。覚えたセリフをしゃべるのはドラマの中です。私たちが日々言葉にしている暗記したものでしょうか。決まり文句や決まった状況でのセリフなどもあります。基本的に自ら新しい文を発しているのです。では、真の英語力とは「覚えた英文を正しく発音する」ことではないはず。



指導の過程として、1年生では「ある程度の長さの英文を暗記して正しく発音する」ことが最初の目標でした。2年生では、「グループで寸劇に取り組み、感情を込めて演じる」こと、「話し合いでは自分の意見を述べ、相手の意見を理解し、反論する」ことが目標となりました。指導の中で、話すだけでなく書くこと、相手の意見をメモすること、疑問点は質問することなども習慣的に生徒ができるようになっていきました。

そんな英語科の過程を考慮するとやはりディベートは演目として欠かせないものでしょう。ディベートに参加すると手を挙げた生徒たちはディベートをおもしろいと考えているのでしょうか。スポーツの世界でも、試合中に何が起こるかは分かりません。だから練習し、いろんな場面を想定して準備するのでしょうか。

Closing Ceremony

閉会式では、弁論大会の審査発表と審査員の先生からの講評、来賓の先生方からの講評をいただき、最後に実行委員副委員長の挨拶で終わりました。生徒が委員となり、準備・運営にあたり、自分たちで楽しめる会にしようとしてここまで頑張ってきました。ここに掲載した写真も生徒たちが撮影したものです。教員は普段の授業の成果を出せるように、サポートしてきました。3年生は最高学年として、1, 2年生の模範となっていれば、今後の英語科発表会もますますいいものになっていくのでしょうか。今年は、卒業生が後輩たちの発表会を見に来てくれました。今年でやっと3回目を迎えた Showcase です。英語科の在校生だけでなく、卒業生も楽しめる会になっていくとおもしろいですね。



最後になりましたが、当日ご多忙中にも関わらず、会場まで足を運んで下さった方々に感謝を申し上げます。また、アンケートにもご協力いただき、今後の英語科発表会の改善に役立てていきたいと存じます。ありがとうございました。

